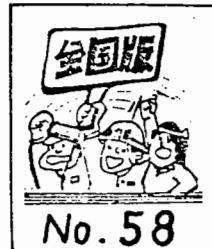


再建大会の破産に追いいつめられた 「本部」反動分子！



千葉市要町二一八（動力車会館）
(鉄電)二三五八九・(公衆)四三二二七二〇七

80.7.13
全國版
No. 58

全国の労働組合員のみなさん。

「本部」革マル反動分子は、八月全国大会までに何としても「千葉再建」をデツチ上げなければならぬということに追い詰められ、「国鉄当局に泣きつき」「権力を告訴する」と路線化した労働組合とはいひ難い、あのマル生闘争時における鉄労よりも数段右翼的な発想からの陰険な策動を行つています。

全くのデツチ上げ!! 「業務再開」

「本部」反動分子とスペイ、裏切分子の「再建」が「昨年全国大会に参加した七名」の実態を一步も出でていないという現実に追いつけられ、「一〇〇〇名動員して、八鍬委員長がのり込んで『再建』大会をやる」という暴力丸出しの路線をもつて、短期転勤者にムリヤリ年休をとらせ、当局に講習室の「安全な使用」を要請して画策した「津田沼支部再建」は、かんじん要の短期転勤者の忌避と動労千葉の総決起によつて、六月二八日、七月五日と二度にわたつて破産してしまいました。

この現実にうちのめされた「本部」反動分子とスペイ、裏切分子は、「中止していた業務を再開する」なる珍奇な論理をもつて、実体のない「再建地本」があたかも存在するかのようなペテンとデマをもつて、全国の労働組合員の眼をごまかそうとしています。

現実をまともに見ることができない
「本部」反動分子

「55・10」を売り渡す
「本部」反動分子に未来はない

この「業務再開」の実態は一四〇〇名組合員の大部分が動労千葉に結集し、闘い抜いていよいよ厳然たる事実をまともに見据えることができないまま、「除名者以外は労働組合員である」として土屋粹や嶋田誠等昨年全国大会に参加した七人の裏切、スペイ分子を手先に、佐倉、津田沼支部「役員」といひなし、これを「交渉委員」にデツチ上げ、当局に認知を要請するといひものなのです。

当局はこの「動労本部津田沼事務所」の申し入れに対し「55・10」と「56・3ジェット期限切れ」において「当局に全面協力すること」を条件に、明白な不当労働行為も辞さず「交渉委員」を認知し、そのような「御用組合を使って」動労千葉の闘争と組織を破壊しようと企んでいます。

動労千葉の闘争圧殺だけが目的

いまや、誰が真に労働者の立場に立ち切つて闘争と組織を破壊しようと企んでいます。

動労千葉の闘争圧殺だけが目的

う者であり、誰が当局・権力の手先であるかは明白であります。

「55・10」や「56・3」について、動労千葉の闘いを圧殺するということだけを目的として、権力・当局と「本部」反動分子との野合の実態が、またひとつ、より鮮明な形で突き出されてきたのです。

動労千葉は、労働組合として、現在も将来も職場・生産点に責任をもつものとして、この極反動の実態をとらえてはなきず、断固闘い抜く決意です。

全国の労働組合員のみなさん。

「本部」反動分子が労働者の闘いを当局に売り渡す実態は、「千葉」に限られた問題ではありません。

「55・10」をはじめとする全国のまじめな労働組合員、国鉄労働者の闘いを、「われわれは協定以上の労働条件を取り過ぎてはなきず、断固闘い抜く決意を路線として当局に売り渡す「本部」反動分子の裏切りを絶対に許すことはできません。

「三信ビル」へ短期転勤者を呼び出し、緒方や竹内等と一緒にどう喝する東洋大学生革マル・嶋田と、「動労千葉は俺のこととかわないうが、松崎さんは『佐倉の親分』と言つて下にもおかない」ということのみで、労働運動のあり方については「むつかしいことはわからない」「口ではかなわない」と繰り返す土屋をはじめとする数名以外は全く実態のない「業務再開」に対し、動労千葉全組合員は怒りに燃え、この策動は必ず粉碎できるという確信をもつて闘い抜いています。

全国の労働組合員のみなさん。

「55・10」を売りわたす「本部」反動分子に未だありません。

動労千葉とともに決起しようではありませんか。